

資料4-1

(多久市立病院の公立病院経営強化プランより抜粋)

多久市立病院 経営強化プラン

令和6年度

(地域医療構想に関わる部分の抜粋)

令和5年12月

多久市立病院

第3章 経営強化プラン

1 役割・機能の最適化と連携の強化

(1) 地域医療構想等を踏まえた当院の果たすべき役割・機能

市立病院は二次医療圏である佐賀中部医療圏（構成市町：佐賀市、多久市、小城市、神埼市、吉野ヶ里町）に位置しています。中部医療圏には、県内でも最重要な第三次救急医療を担い、高度急性期を併せ持つ佐賀大学医学部附属病院等の医療機関が複数存在しています。中部医療圏での 2025 年に向けた病床機能の充足率については、急性期、慢性期は満たしているものの、高度急性期、回復期については不足している状況です。

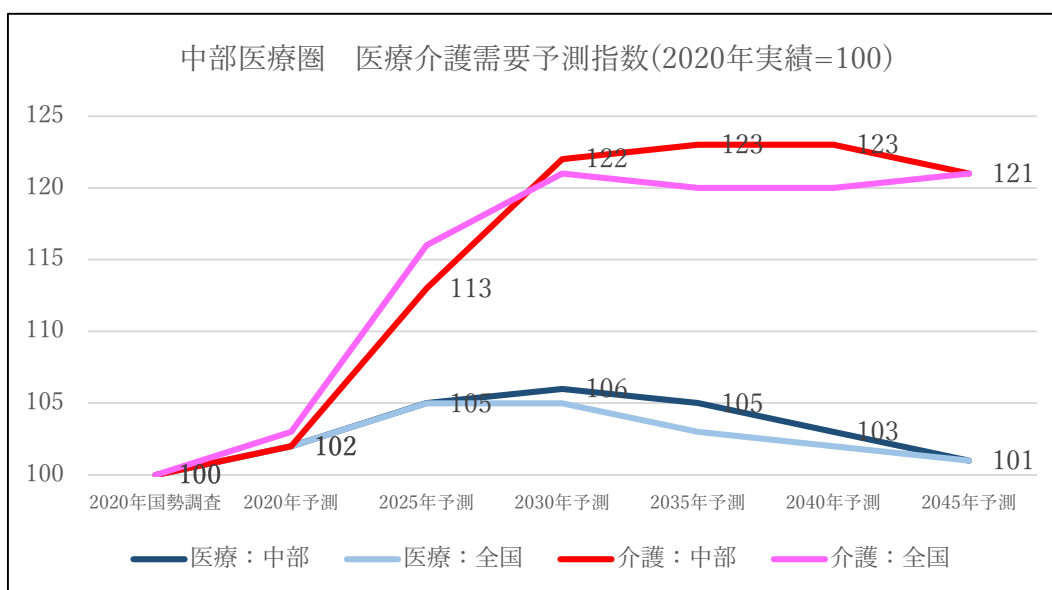
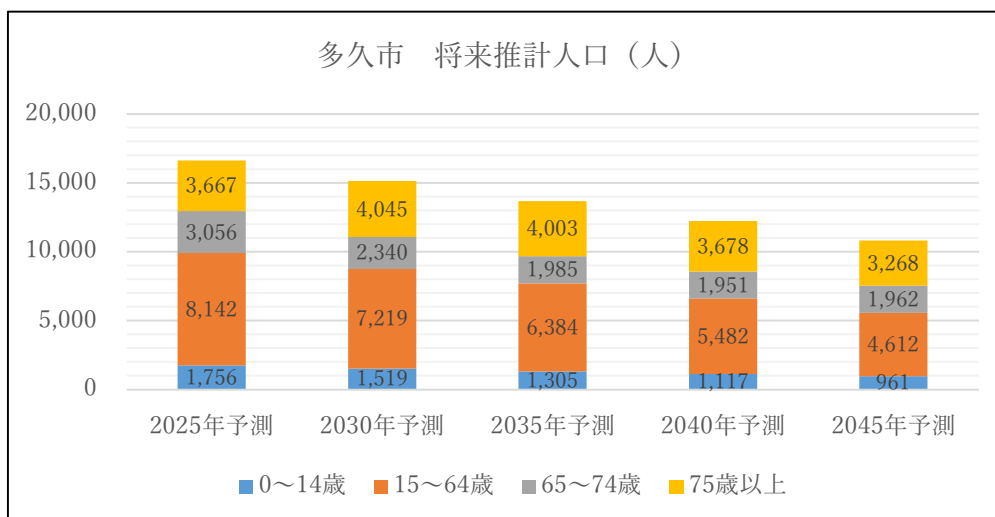
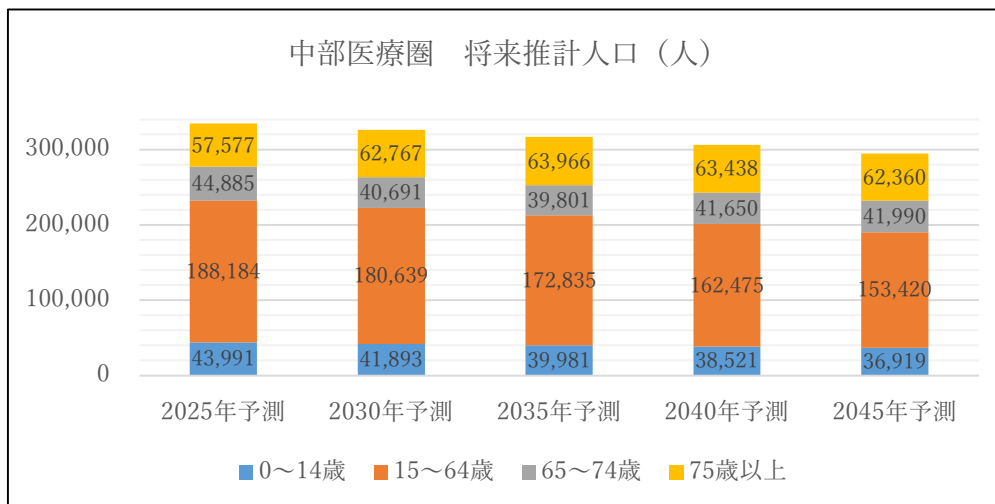
中部保健医療圏における病床機能報告病床数（2022 年度）と佐賀県地域医療構想における必要病床数（2025 年）との比較

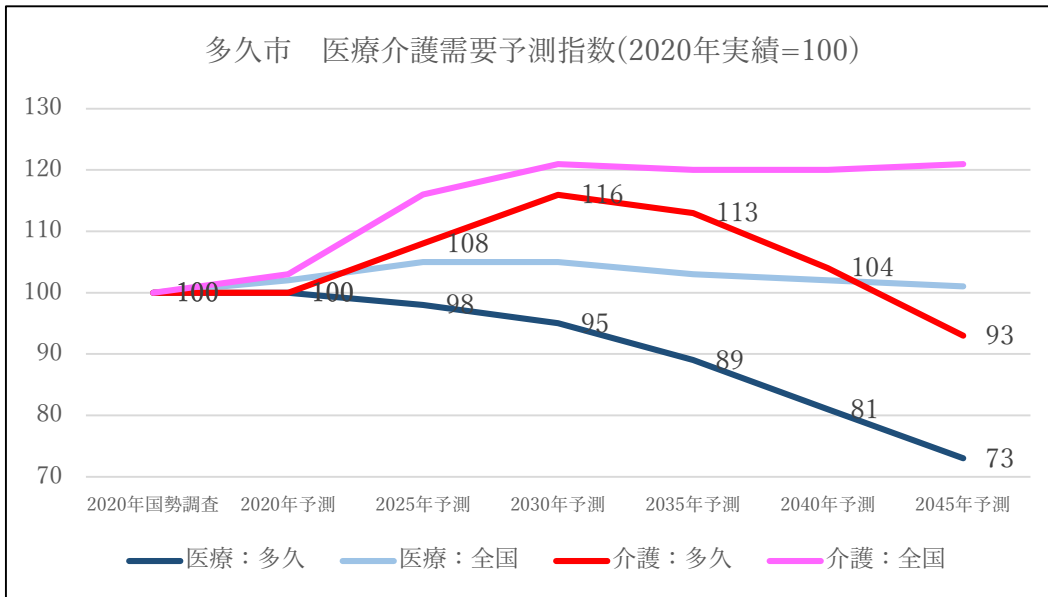
病床の機能区分	2022 年度 病床機能報告病床数	2025 年 必要病床数	差
高度急性期	303	372	△69
急性期	2,125	1,168	957
回復期	1,142	1,430	△288
慢性期	1,125	855	270
休床	245	—	—
計	4,940	3,825	870

出所：佐賀県「令和 4 年度病床機能報告の集計結果」

また、将来の医療需要予測では、国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口（平成 30 年推計）によると、中部医療圏、多久市共に人口の将来見通しは減少を続けると見込まれます。65 歳以上の人口については、中部医療圏は 2040 年をピークに、多久市は 2025 年以降減少し、医療需要が高まる 75 歳以上の人口についても、中部医療圏は 2035 年をピークに、多久市は 2030 年

をピークに減少していくと見込まれます。





出所：国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』(平成 30 年推計)日本医師会「地域医療情報システム」

このような状況の中、地域に密着した公立病院として、地域住民の健康保持に必要な医療を提供し

「市民から愛され 信頼される病院」を基本理念として、次の役割及び医療機能を担っていきます。

- ①急性期・慢性期機能病床の継続
- ②地域医療の水準を維持向上させる病院
- ③救急医療の確保
- ④災害拠点病院としての機能の充実
- ⑤新興感染症対策

病床機能毎の病床数

病床の機能区分	2022 年度 病床機能報告病床数
急性期	60 (うち地域包括ケア病床 6 床)
慢性期	45
計	105

(2) 地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割・機能

急性期及び慢性期医療を担う地域の中核病院として、他の医療機関との機能分担及び連携を推進し、患者が退院後も切れ目のないケアを受けられるよう、各関係機関と協力して、地域における在宅医療を含む医療、福祉及び介護の連携体制（地域包括ケアシステム）の構築に貢献することが重要となります。

市立病院としては、多久市の保健福祉部門や市内の医療・介護・福祉施設等との連携により介護保険事業との整合性を確保しつつ、緊急時の一時入院の受入れ等、積極的に在宅医療・介護連携の取り組みを進めていきます。

(3) 機能分化・連携強化

全国的に医師不足、看護師不足が叫ばれる中、持続可能な地域医療提供体制を確保するためには、限られた医師・看護師等の医療資源を地域全体で最大限効率的に活用することが必要となります。そこで、以下の機能を担える病院を目指すとともに、医師派遣等について佐賀大学医学部等との連携を強化します。

- ・地域住民の医療・健康を全般的に支えるため、かかりつけ医を支援する機能
- ・住民の健康増進のため、疾病の予防・健診・早期発見・重症化防止のための機能
- ・地域医療構想で示された当面の医療需要に対応するため、在宅復帰やリハビリテーション機能
- ・高度・専門医療について、佐賀大学医学部附属病院や佐賀県医療センター好生館と連携し、患者を適切に紹介し、また在宅復帰に向けて逆紹介を受けられることができる機能
- ・三次救急医療機関との役割を分担した二次救急医療の機能
- ・かかりつけ医との連携や地域包括支援センターとの連携を強化する地域連携部門や退院支援部門の機能
- ・高齢者の移動手段を考慮した在宅医療・訪問看護の機能

(4) 医療機能や医療の質、連携の強化等に係る数値目標

市立病院は市内で唯一の公立病院、救急告示病院として、また、佐賀県の第二種感染症指定医療機関である5病院を補完する入院協力医療機関13病院の1病院として、地域住民の安心・安全を担っています。

また、今後ますます増加が予測される高齢者の入院に対しては、地域包括ケアを推進するため、関係機関との連携を強化し、リハビリテーション機能の充実により在宅復帰を支援します。これらを踏まえた数値目標は次のとおりです。

①医療機能・質に係るもの

項目	R2(実績)	R3(実績)	R4(実績)	R5(見込)	R6(目標)
救急車による患者数	211	195	204	250	260
手術件数	244	266	253	290	350
健康診断件数	221	145	213	220	300
訪問看護件数	61	55	39	110	250
在宅復帰率(%)	94.0	95.0	93.8	95.0	95.0
運動器リハビリ件数	17,412	14,597	13,383	16,000	18,000
消炎鎮痛リハビリ件数	3,175	1,547	1,212	1,200	3,000

②連携の強化等に係るもの

項目	R2(実績)	R3(実績)	R4(実績)	R5(見込)	R6(目標)
紹介者数	726	815	830	850	1,000
逆紹介者数	711	667	754	700	800

③その他

項目	R2(実績)	R3(実績)	R4(実績)	R5(見込)	R6(目標)
----	--------	--------	--------	--------	--------

健康相談件数	1,250	1,257	1,242	1,800	1,900
--------	-------	-------	-------	-------	-------